

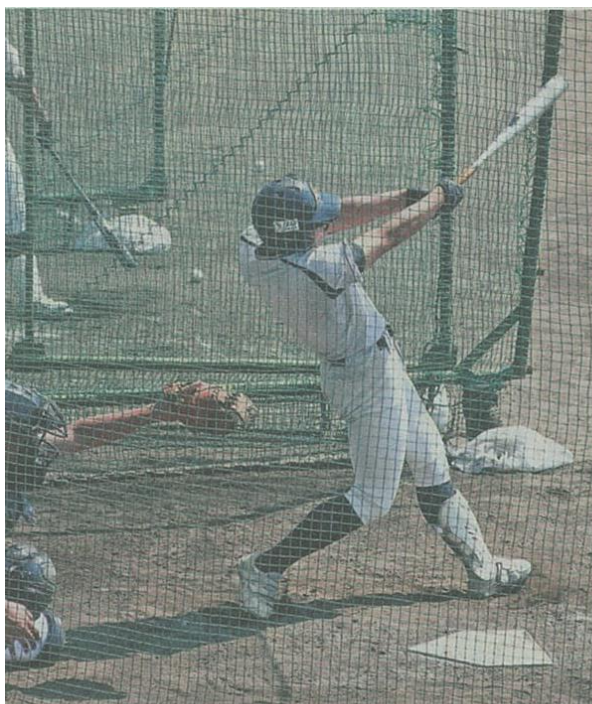
主砲長谷「次戦は打つ」

光星、あす文星芸大付（栃木）戦

全国高校野球選手権大会で初戦を突破した本県代表の八学光星は16日第3試合で、文星芸大付（栃木）と激突する。14日は非公開で練習を行い、臨戦態勢を整えた。八学光星はノースアジ

ア大明桜（秋田）との初戦を7-0で快勝。主戦戦を要所を締めて完封し、打っては藤原に一発が飛び出すなど投打がみ合った。14日の練習は悪天候が予想されるため屋内に会

場を変更。個人所有施設のため非公開で行った。勝利から一夜明けた13日は、兵庫県西宮市の津門中央公園野球場で約1時間半、練習に汗を流した。打撃練習に長い時間を割き、各打者が自分の



光星ナインは打撃練習に長い時間を割き、スイングを確かめた。13日午前、兵庫県西宮市の津門中央公園野球場

スイングを確認しながら黙々と打ち続けた。

4番長谷は「初戦はみんな動きが硬く、本来のスイングができていなかったから」とこの日の練習メニューが打撃中心となった理由を説明し、「今日は70球ほど打ち込んだ。調子は悪くないと思うので、次戦は一本打ち

たい」と意気込んだ。文星芸大付は、栃木県大会決勝で強豪・作新学院を破り甲子園出場を決めた。今大会の2回戦では宮崎学園と対戦。打撃戦の末、終盤に4点差を逆転し9-7で制した。

直球がさえる。打線は長打力がある4番小林と5番黒崎が中心だが、2回戦では野手全員が計12安打を放っており、切れ目がない。（棟方好華）

制球力が高い主戦の左腕澁谷から堀江、工藤両右腕への継投は同校の必勝パターンで、2回戦もこの順でつないだ。右の2投手は140キ前半の

光星 甲子園だより

おかもと るい 岡本 琉奨 投手（2年）



夏の県大会では計4試合に登板。四回から継投した決勝戦では自己最速の148キをマークするなど、ストレートが武器

直球武器に活躍誓う

の2年生左腕だ。「気迫を前面に出して投げる姿が好き」と松井裕樹投手（東北薬大）に憧れる。「直球で勝負するところは、少し自分と似てるかも」

3人兄弟の末っ子で、甲子園では「いつも応援してくれるお兄ちゃんたちに活躍する姿を見せた」と意気込む。

（東京都・板橋第二中出身、175キ、78キ、左投げ左打ち）